あじびニュース 12

Fukuoka Asian Art Museum News
"Ajibi" is a nickname of the Fukuoka Asian Art Museum
Ajibi News

December
2021 Vol.86

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

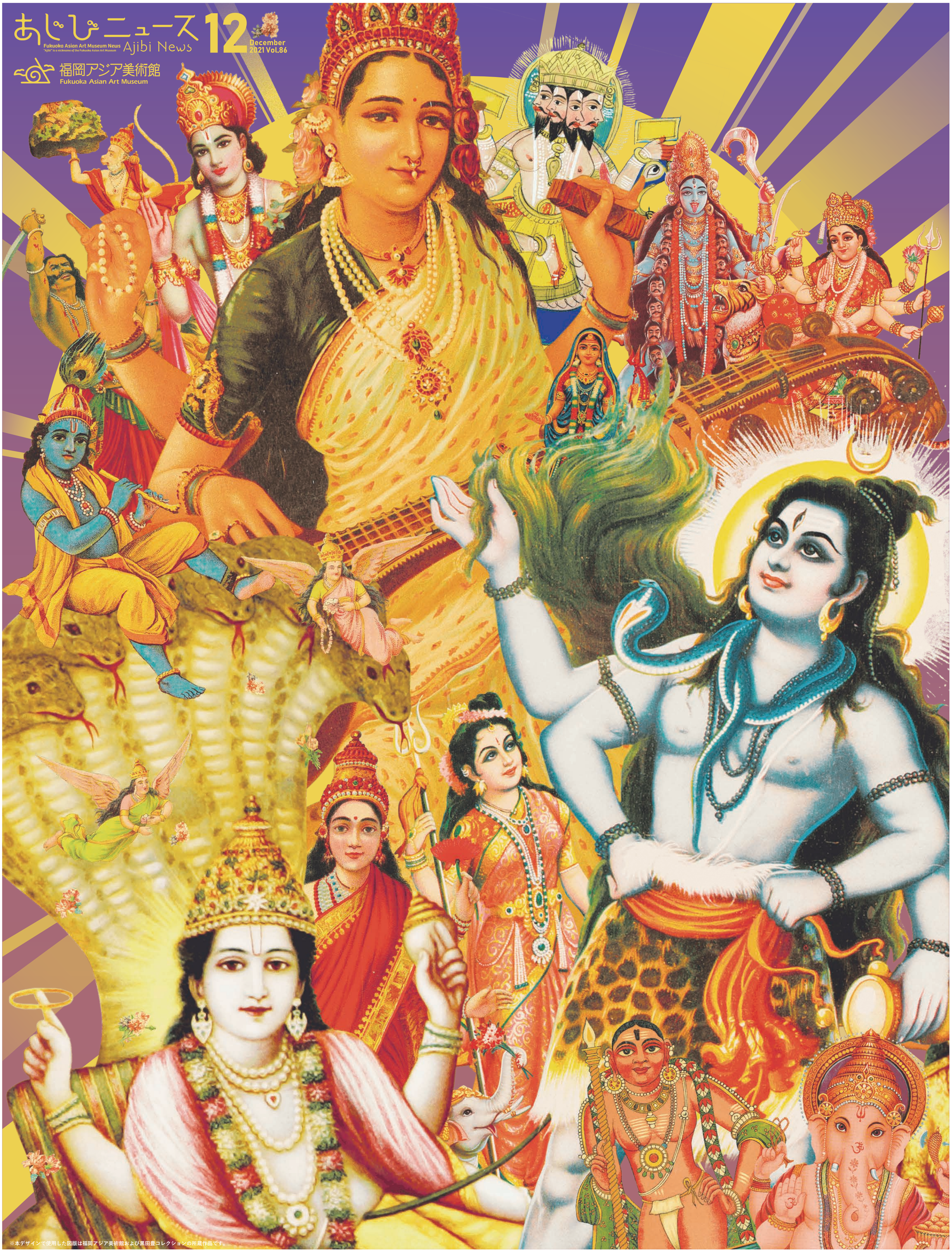
※本デザインで使用した図版は福岡アジア美術館および黒田豊コレクションの所蔵作品です。

あじびニュース 12

Fukuoka Asian Art Museum News
"Ajibi" is a nickname of the Fukuoka Asian Art Museum
Ajibi News

December
2021 Vol.86

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum



※本デザインで使用した図版は福岡アジア美術館および黒田豊コレクションの所蔵作品です。

インド独立75周年・日印国交樹立70周年

ヒンドゥーの神々の物語展

HINDU GODS AND GODDESSES ACROSS TIME

大特集号 インタビュー

黒田豊 印度大衆宗教画 蒐集冒険譚

2022年1月2日(日)から開催される福岡アジア美術館の特別企画展「ヒンドゥーの神々の物語」は、インドとその周辺の国や地域で多くの人々に愛されているヒンドゥー教の神々のイメージの変遷をたどる展覧会です。本展を開催するうえで核となるのが、コレクターである黒田豊さんが約40年にわたり蒐集された、ヒンドゥーの神々を題材にした大衆宗教画の作品群です。それらの貴重なコレクションを2019年に福岡アジア美術館に寄贈されたことがきっかけとなり、本展の開催に至りました。今回の『あじびニュースVol.86』では、展覧会開催に合わせて収録した特別インタビューをとおして、黒田豊さんとヒンドゥーの神々の邂逅の軌跡に迫ります！



もっと知りたい！ 黒田豊さん



1 インドを訪れるきっかけと、初めての印象を教えて下さい。

黒田：学生時代からインドの何となく不思議な雰囲気にひかれていました。中でも、ヒンドゥー教の神様は、ギリシャや日本の神話に出てくる神様同様、「それでも神様なの？」と思ってしまうような人間臭いエピソードであふれており、興味を持っていました。初めてインドに行ったのは、1978年の正月のことでした。その時の印象は、「ああ、こんなものか」と、たいした感動が湧いてくることはありませんでしたし、その後、徐々にインドの魅力にはまってゆくことになるとは思いもよりませんでした。

2 インド美術をコレクションすることになったきっかけは？

黒田：もともと色々なモノを集める癖はあったので、初めての渡印の時から気に入った作品を購入してきました。1993年の正月のことでした。ボンベイ（現ムンバイ）の骨董店で、ヒンドゥーの神々や古譚(こたん)が描かれた1910~1930 年代頃に作られたオレオグラフ11枚(油絵風石版画)を見せられて衝撃を受けて即購入。以後オレオグラフの神様絵に重点を置いて蒐集することを決め、現在に至っています。

3 オレオグラフのどういったところに魅力を感じましたか？

黒田：ヒンドゥーの神々や古譚(こたん)が鮮やかな色彩で描かれているのですが、時代を経た、全体にふんわりと包まれるようなマチエールはなんとも魅力的でした。描かれている神々や古譚(こたん)、これこそインドの人々が求めているものの全てが集約されて表現されていると感じさせられたところです。



作者不詳[インド]《ラーマとラーヴァナの戦い》1910年代、福岡アジア美術館所蔵（黒田豊コレクション）

4 作品をコレクションするうえで楽しかったこと、苦労したことは？

黒田：コレクターのなかでは少数派だと思いますが、目的を絞りこんで、これを集めようといった体系的な蒐集方針といった考えはありませんで、インドを訪れた時にたまたま出会って気に入った作品を買い求めてきました。そうしていると、思いがけず想像を超えた面白い作品に出会えることがあるのですね、その瞬間こそがコレクションの醍醐味というものでしょうか。苦労を感じたことはありませんね。あえて言えば、サラリーマン・コレクターにつきものである資金不足が苦労と言えば苦労ですね。欲しいものが購入出来なかったことは数限りなくあり、何度ほぞをかんだことでしょうか。これは弱小コレクターの宿命ですね。

5 福岡アジア美術館に作品を寄贈されたのは何故ですか？

黒田：年齢を重ねるうちに、このままいつまでも手元に置いておくわけにはいかないという思いは以前から持っていました。日本でこのような大衆向けのインド美術を蒐集している人は少ないと思います。さらに、今では作る人がいなくて、これから蒐集することが困難な作品が多く含まれていて、このようなまとまった作品群を散逸させたくないという思いが強くありました。作品の管理・運営をお任せできる公的な機関への寄贈ができればと考えをめぐらしていて、あるご縁をきっかけに、福岡アジア美術館に寄贈することを決意しました。今回の展示をきっかけに、学芸員の方々から、コレクターの眼とは異なる、斬新な切り口や視点を持ったユニークな企画が提案されることを期待しています。

プロフィール

出版社勤務30数年。退職後のインド渡航４回。再びインド行きを目指すも、コロナ禍の為当分お預けとなった。ところが、後期高齢者のリスト入りを目前にして、体力・気力共に下降気味の毎日の為、インド行きは絶望的である。好きなクラシック音楽を聴きながら、遥かインドを思い描く日々です。健康の元は、毎日のテレビ・ラジオ体操とウォーキング。

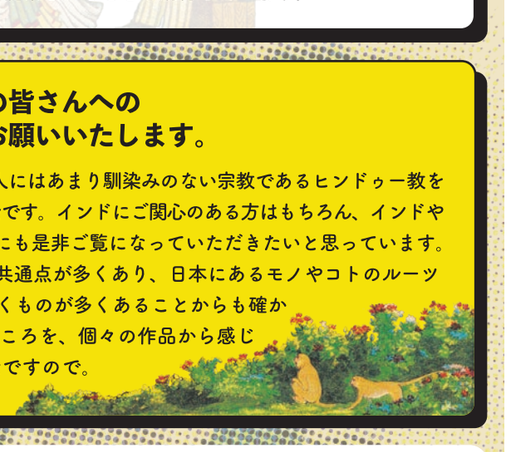
- インド渡航回数：19回
- インド滞在最長期間：3か月
- 好きな神様：クリシュナ
- インドのここが好き：万事にアバウトで肩に力をいれなくてよいところ
- 好きなインドの都市：スリヴィッリプトゥール(タミル・ナードゥ州)、ムンバイ、シュリンゲーリ(カルナータカ州)

6 今回の展覧会に出品される作品の中で、おすすめの作品があれば教えて下さい。

黒田：私のお気に入りは雲母絵です。雲母(※けい酸塩の鉱物、別名きらら)の上に顔料で神様が描かれています。インド南部のタミル・ナードゥあたりで描かれたもので、南インドの雰囲気を漂わせた作品です。クオリティーも保存状態もよく気に入っています。また、ウドゥピ近郊のマニパルにあるハスタ・シルパ・ヘリテージ・ヴィレッジ(30棟余りの南インドの古建築を移築し、棟ごとにインドの美術品や工芸品をテーマごとに展示した美術館群)の創設者からいただいた、ラヴィ・ヴァルマー美術石版印刷所の印刷過程を知ることができる試刷りの資料も展示される予定とうかがっています。これは印刷資料として大変貴重なものです。

7 最後に、読者の皆さんへのメッセージをお願いいたします。

黒田：今回の展覧会は、日本人にはあまり馴染みのない宗教であるヒンドゥー教を中心にインドを紹介する展覧会です。インドにご関心のある方はもちろん、インドやインド美術に馴染みのない方にも是非ご覧になっていただきたいと思っています。実は、インドと日本の間には共通点が多くあり、日本にあるモノやコトのルーツをたどると、インドに行きつくものが多くあることからも確かだと思います。そのようなところを、個々の作品から感じ取っていただける絶好の機会ですので。



ヒンドゥーの神々の物語展

会期：2022年1月2日(日)~3月29日(火)

観覧料：一般 200(150) 円 高大生 150(100)円
中学生以下無料 ＊()内は団体料金(20人以上)
主　催：福岡アジア美術館、西日本新聞社、公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団
協　力：在大阪・神戸インド総領事館
助　成：公益財団法人 花王芸術・科学財団、公益財団法人 福岡文化財団

古くは先史インダス文明の出土品や女性像から、17世紀以降の優美なインド更紗やガラス絵、大衆文化を彩った民俗画、ヴァルマー・プリントと呼ばれる印刷物、現代イラストレーションなど、約500点に及ぶ作品を通してヒンドゥーの神々のイメージの変遷をたどる展覧会です。

序章 インド世界の誕生 —土・石・金属の造形

インド亜大陸の北西部に栄えた古代の文明は、畏怖と豊穣の象徴として自然や動物、女性たちを畏れ敬う素朴な信仰を有しました。本章では、ヒンドゥー教以前の世界を紐解きます。



《女性土偶》前3000年~前2600 年頃、古代オリエント博物館蔵



《コブウシ土偶》前2200年 - 前2000年、古代オリエント博物館蔵

第1章 煌びやかなイメージ —更紗・細密画・ガラス

17世紀以降のインドでは、各地の王族やイギリスの高級官吏向けの美術品として、更紗や細密画などの伝統絵画がつくられ、新しい描法や素材も試みられました。画題ではクリシュナなどが人気を集めました。



《クリシュナ図金更紗（ピチャヴァイ）》17-18 世紀、平山郁夫シルクロード美術館蔵

第2章 民衆に愛される神々 —民俗画・刺繍・祭り

インド各地で催される祭りでは、ヒンドゥー教の神々に対する民衆の信仰心が熱狂的に高まります。村々に伝えられてきた素朴な民俗画や、寺院前で売られていた安価な絵にもさまざまな物語や神様の姿が描かれていました。



ゴーダーワリー・ダッタ《幼年期のクリシュナ》1990年、福岡アジア美術館蔵

第3章 印刷術とグローバル時代の到来 —書物・オレオグラフ・陶磁器



《笛を吹く牛飼い(クリシュナ)》20世紀前半、福岡アジア美術館蔵

大航海時代とともに、オランダやイギリスなどがインドに到来。文化人類学的な知見や書物・印刷物によってインド世界が急速にグローバル化します。この流れはインド人画家のラヴィ・ヴァルマーの登場によって本格化し、彼の描いたヒンドゥー神話のイメージがインド中に流布していきました。

◇日本・ヨーロッパから輸出された品々

ヨーロッパや日本国内において生産され、インドに輸出されたリトグラフやマッチラベル、陶器の人形、タイルなどを紹介。



《サラスヴァティー》(マッチラベル) 1910-1920年代、黒田豊コレクション

第4章 ヒンドゥーの神々の諸相



◇ヴィシュヌ神と叙事詩

クリシュナやラーマなどの英雄物語を取り込み、絶大な人気を誇ったヴィシュヌ神を紹介。

作者不詳《カーリヤを退治するヴィシュヌ》20世紀前半、福岡アジア美術館蔵

◇シヴァ神とその眷属(けんぞく)

破壊と創造の神シヴァ、怒れるカーリー女神、象の頭をしたガネーシャなどを紹介。

◇女神とアプサラス

美と幸運の女神、神聖な川の女神、天女など、自然や豊穣と結びついた女神信仰を紹介。



ラージャー・ラヴィ・ヴァルマー《天女ティローッタマー》19世紀末-20世紀前半、福岡アジア美術館蔵（黒田豊コレクション）

第5章 21 世紀へ —物語は語り継がれる

出版産業の拡大のみならず、テレビやインターネットの普及によってさらに大衆化し、世界の隅々にまで飛び交うようになった現代。時代とともに変転しつづけるヒンドゥーの神々の物語を紹介します。



ムケシュ・シン《18日間》2010年、作家蔵 ©2021 Graphic India Pte. Ltd.

関連イベント



版画ワークショップや絵本の読み聞かせなど盛りだくさん！

- 誰でもかんたんリトグラフ！
- オリジナル・インド・スパイスを作ろう！
- 絵本でインドのお話を聞く会
- 学芸員によるギャラリー・トーク

ほか

イベント詳細はこちらから⬇⬇

IENA COFFEE



ミュージアムカフェ by イエナコーヒー

ビリヤニやラドゥなど、インドで親しまれているメニューを提供します。



ミュージアムショップ ロンホァ

ヒンドゥーの神々が描かれたグッズや、展示関連書籍などを販売します。

《同時開催》コレクション展

ひとびとの物語 南アジアの近現代美術

インドおよび南アジアの国々では、信仰と強く結びついた彫像や絵画が数多く生み出された一方で、特に近代以降、芸術家たちは自らが生きる世界や、そこで出会う人々についても深い洞察を重ねてきました。民衆画の表現を取り入れながら、インド人の親子を聖母子像に重ね合わせて誇り高く描いたジャミニ・ロイの作品、内戦からの復興へと道を歩む祖国スリランカの街並みを見つめたプラディープ・タラワッタの作品など、それらの作品は故郷への時にあたたかく、時に真摯なまなざしに満ちています。本展では、当館の南アジア近現代美術コレクションのなかから、人々の姿や身の回りの日常、そして社会の現実を見つめた作品をご紹介します。

※「ヒンドゥーの神々の物語」展チケットでご覧いただけます



ジャミニ・ロイ《母と子》制作年不詳 福岡アジア美術館蔵

読者プレゼント



『あじびニュースVol.86』をお手に取っていただきありがとうございます。下記①~④を明記の上、郵便はがき、FAX、またはメールにてご応募下さい。

①ご希望のプレゼント番号
②住所・氏名・年齢・電話番号
③あじびニュースを手にした場所
④本誌や当館に期待すること、ご意見など

1. 「ヒンドゥーの神々の物語」展ペアご招待チケット(10組20名様)
2. 「ヒンドゥーの神々の物語」展図録(5名様)
3. 書籍「インド ガラス絵の世界 ～もうひとつの大衆宗教画～」/ 著：黒田豊(5名様)

応募先 〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル7・8F 福岡アジア美術館 あじびニュース担当 Fax : 092-263-1105 E-mail : pr@faam.ajibi.jp

締切 2022年3月1日(火)必着

Exhibition Information

FAAM will host the special exhibition *Hindu Gods and Goddesses Across Time* from January 2, 2022. This exhibition traces the transition of images of Hindu Deities through approximately 500 pieces including artifacts and female figures from the prehistoric Indus civilization, elegant Indian Sarasa and glass paintings after the 17th century, folk paintings, Varma prints, and contemporary illustrations. There will also be special Indian-inspired menus at the museum cafe and exhibition-related items at the museum shop.

*Please visit our website for more details.

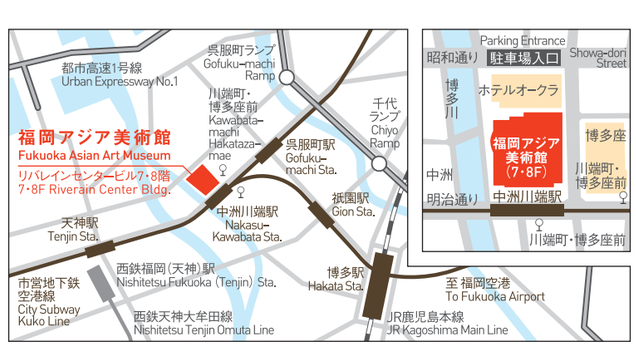
あじびでは新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みをおこなっています。ご来館の際の注意事項はホームページにてご確認いただけます。
FAAM has also implemented a nunmber of other measures to keep oue community safe from the effects of Cocid-19. Please visit our website.

福岡アジア美術館 Fukuoka Asian Art Museum
http://faam.city.fukuoka.lg.jp/ TEL : 092-263-1100
〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル7・8階

ギャラリー観覧時間 / 9:30 - 18:00 (金曜・土曜は20:00まで)
※ギャラリー入室は閉室30分前まで
開館時間 / 9:30 - 19:30 (金曜・土曜は20:00まで)※あじびホール、アートカフェなど
休館日 / **毎週水曜日**(水曜が休日の場合はその翌平日)
年末・年始 (12月26 日~1月1日)

7 & 8th Floor, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka City, Japan

Gallery Opening Hours 9:30 ~ 18:00(Until 20:00 on Fridays and Saturdays)
*Last admission is 30min before closing.
Museum Opening Hours 9:30 ~ 19:30(Until 20:00 on Fridays and Saturdays)
Closed Wednesdays (or the following day if Wednesday is a national holiday)
New Year's Holidays (26 Dec ~ 1 Jan)



福岡市地下鉄
中洲川端駅下車、6番出口より徒歩すぐ
福岡空港駅より９分
博多駅より３分
天神駅より１分

西鉄バス
川端町・博多座前バス停下車、徒歩すぐ

車
大宰府方面から 都市高速千代ランプより車で約7分
北九州方面から 都市高速呉服町ランプより車で約５分
※昭和通りより、博多リバレイン地下の駐車場(有料)をご利用ください。

By City Subway
Alight at Nakasu-Kawabata Station and take Exit 6
From Fukuoka Airport Station: 9 minutes /From Hakata Starion: 3 minutes/ From Tenjin Station: 1 minute

By Bus
Kawabata-machi /Hakataza-mae bus stop

By Car
From Dazaifu: 7 minutes from Chiyo Ramp, Urban Expressway
From Kitakyushu: 5 minutes from the Gofukumachi Ramp, Urban Expressway
*Enter Hakata Riverain Underground Parking (toll parking lot) from Showa-dori.

R65 古紙パルプ配合率65％再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK

あじびニュースVol.86 2021年12月10日発行 企画・編集・発行：福岡アジア美術館 デザイン：堺由加子(福岡アジア美術館) 翻訳：江上賢一郎(福岡アジア美術館) 印刷：株式会社西日本新聞印刷